

●木津川希少種植物調査管理業務の契約目前 24日 始めて近畿地方整備局から淀川河川事務所を通じて、やましろ里山の会に業務発注が来たのは昨年10月でした。木津川に生育する絶滅が心配される植物レンリソウやフナバラソウ、イヌハギやオオバクサフジの生育調査を主目的で、そのための除草作業を行うというものでした。これ等の植物が生育するところは里山の会が20年間にわたって確認して場所(21カ所 8440 m²)でした。この草花を含めて里山の会は「この花なかに」と出会ったときからその保全を河川管理者で当時の建設省の出先・木津川出張所に強くお願いを繰り返してきました。そして今日まで木津川堤防を中心に生育植物の調査を行ってきた結果917種の生育植物を確認しました。そして107か所に貴重な植物(レッドデータ記載)が生育していることを明らかにしました。またその917種の植物の標本をつくり上げ現存を証明するものとして保管しています。この植物標本の同定は日本原色植物図鑑を発行されている日本屈指の植物分類学者村田源先生にお願いしたものです。そして先生によって貴重なものとして優れた標本約200種の作品はアメリカやイギリスなど各地の植物教育関係機関に送付保存されています。もちろん湯川幸子さん西田千恵子さん、浜谷さん、上島裕さんの実名入りの採取リストがつけられています。この標本製作には中西さんや北波さんを中心にした標本化作業、そして大村氏や森島氏による乾燥作業、そして出来上がった標本を固定作業は事務局会議出席者が数年に亘って作り上げた成果物なのです。こうした成果物によって、現在木津川の植物の豊かさ根拠が作り上げられたのです。そして917種の生育が証明され、現在107か所の生育地が保護されているのであります。こうして他に類のない植物を最も得意とする団体として河川協力団体に任命され、生育の植物の維持保全管理の取組みが国交省から依頼されたのです。多くの偉大な皆さんの我を忘れた成果が実を結んだのです。現在を受け継ぐ里山の会はこの努力をしっかりと受け継ぎ、さらに貴重な植物の保存活動を継続していきたいと思っています。関係各位のご協力を強くお願いいたします。

●カスミサンショウウオ生育池でアカハライモリ(9cm)1匹を捕獲 里山の会は名前から得られる活動イメージは里山での活動を主力としていっていると考えられているようですが、植物の生育するところは里山だけではなく野原河原水際にもあります。当初は山に行くことが中心でしたので、里山と命名したものです。しかし、里山という概念は野原河原などを指していないようでしたが、しかし人里を含めた場所という意味で人が生活資材を得るために入る山間部分から水辺までの広い地域をすべて含んで里山という概念を学び、活動域が広くなり、現在に至っています。そして人のかかわりのある地域と考えると農業にも深く関心が生まれ、同時に燃料として主力であった炭焼きや稲作にも取り組みは膨れる中、オオムラサキの生育を確認する調査観察行動の中で、カスミサンショウウオの生育地にも出会い、桜谷先生のご指導を得て、教育棟や観察棟を実現し、夜の生き物調査にも取り組むようになりました。

さてカスミサンショウウオの発見から10年目になり、その卵囊発見と数日前から幼生の誕生が始まり、昨日、生育池に肉食のアカハライモリが発見されたのです。放置しておくとなら誕生したカスミサンショウウオの幼虫を食べつくします。これも生態系の場面ということですが、絶滅寸前種とされているカスミサンショウウオの生育生存を助けるために京都府でのレッドデータブックで要注目種とされて、最近めっきり少なくなっているアカハライモリを排除しなければならないかと考えています。私たちは非常に悩んでいます。皆さん方のご意見をお聞かせください。お待ちしております

●稲垣課長(国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所環境課)が来所 この機会をいいチャンスとして、里山の会が持っている次のような問題点をお伝えし、善処を要望しました。①イタセンパラ池周囲の雑木の伐採 ②①への通路の整備 ③CD の安全テストの手順書の方法 ④キャド使用と報告手続きの改善 ⑤除草区域明示杭とロープの支給 ⑥聖牛設置への援助 ⑦竹蛇簗の修復について ⑧聖牛設置場所への通路確保と周辺の徹底植物調査などについて 1 時間話し合いました。返答はできる所から取り組むということでした。中でも聖牛への通路の確保は急を要するものです。またなかなか課題が大きいようですが、イタセンパラ池周囲の伐採は緊急を要するものと強調しました。

●当面の日程 26 日 9:00 除草区域の確認作業 10:00 パソコン教室ホームページ更新
13:00 城陽市教育委員会との打ち合わせ 16:00 会計監査
27 日 9:00 京田辺市消防本部の防災訓練地 除草区域の立会
13:00 さくらであい館 竹門先生との聖牛設置現地打合せ
28 日 13:00 第 24 回通常総会 京田辺市中央公民館

● 5 月 2 日(水) 15:00~17:00 天満橋 OMM ビルで淀川流域委員会環境委員会が開催されます。ご参加希望者は申し込んで下さい。先着 40 名となっています。里山の会からは理事長、副理事長が参加予定です。環境委員には村上興正、光田重幸、小川力也、綾史郎、松井正文、竹門康弘先生等里山の会にかかわっている先生方が大勢おられます。ぜひ参加をお願いいたします。

●会誌 44 号感想文から 昨年初めて実施したお泊りによる「夜の生き物調べ」に参加された皆さんの感想文を事務局会議で読み合せました。ここには初参加して得られた学びの多さ、大規模なトラップの取り組みと仕掛け、大学の先生、里山の会の人々そしてお父さんお母さん子どもたち、男性と女性など多様な人たちからの学びの場、そして集まってくる豊かな昆虫たちと自然の豊かさ、どれも一人でもとても得られないすごい学びの場であったことが、こもごも書かれていました。主催した里山の会は、これだけの反応や効果と感謝や学びの場を提供していることと、その果たしている役割と責任と効果の大きさを痛感させられました。もし私たちがこれを主催していなかったら皆さんに里山農園付近の自然の豊かさ、人々の学びの場を提供できていなかったこと。などが話され、私たちも私たちの活動による感動に気づくこともなく、安易な活動となりすごい環境を再認識することなくややもすると継続する困難に滅入ってしまうと予想されます。感激された皆さんと同時にこの感想文から里山の会の事務局出席者に非常に大きな自信と誇りと喜びを与えてくれ、気持ちを奮い起こしてくれました。この感想文を自分の声にして多くの方々にお伝えして、自然を大切に作る仲間の輪を大きくしたいものです。

●大村幸正副理事長 パソコン使用で夏原グラントへの原稿作る これまで必要性は実感するといっていました、なかなかパソコンを手にするのを避けていました。木曜日のパソコン教室への参加も渋っていました。しかし里山農園を中心として事業内容を報告することになって報告文書の提出にはメール送信ということになって、これまで報告には無関係だということでは何も解決しない、との説得が功を通して、決断を促すことができて、播川理事長の手助けもあって、やっと報告文章を打ち上げられました。大きな第前進が実現しました。心から喜びあいたいと思います。事務局にパソコンを打てる人が一人誕生したのです。頑張ってください、期待しています。